

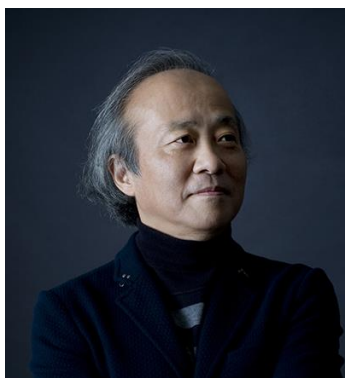
国際音楽祭 NIPPON 2020 芸術監督：諏訪内晶子

フェスティバルのフィナーレを飾る特別コンサート

Akiko Suwanai Presents

尾高忠明指揮 NHK 交響楽団 諏訪内晶子(ヴァイオリン)

Tadaaki Otaka, Conductor, NHK Symphony Orchestra, Tokyo, Akiko Suwanai, Violin



日時：5月10日(月)19:00開演(18:00開場) 会場：サントリーホール
Monday, May 10, 2021 7:00 p.m. at SUNTORY Hall

<予定プログラム>

シベリウス：「ペレアスとメリザンド」組曲 Op.46

Sibelius: Pelleas and Melisande, Op. 46 (version for orchestra)

デュティユー：ヴァイオリンと管弦楽のための夜想曲「同じ和音の上で」

Dutilleux: Nocturne for violin and orchestra, "Sur le meme accord"

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 Op.77

Brahms: Violin Concerto in D Major, Op.77

<チケット料金> S¥9,000/A¥7,500/B¥6,500/C¥5,000/学生席¥3,000
3月14日(日)10:00a.m.~一般発売

主催：ジャパン・アーツ/日本経済新聞社 協力：ユニバーサル ミュージック

特別協賛： 豊田自動織機 **TOYOTA**  豊田通商 **AISIN**

<公演に寄せて>

芸術監督がヴァイオリニストに与えた最高の試練

沼野雄司(音楽学)

音楽祭の「芸術監督」という肩書が、諏訪内晶子というヴァイオリニストの在り方と、どこかミスマッチだと感じる人も少なくないのではないかな。なにより華麗にして孤高といったイメージが強い音楽家だから……。しかし、出演者の選定からプログラムの検討までを常に精力的にこなす彼女の姿勢は、まさに監督のそれに他ならない。

そして、芸術監督である諏訪内晶子が、ヴァイオリニスト諏訪内晶子に課したのが、「国際音楽祭 NIPPON 2020」の掉尾を飾るこの企画である。なにしろ協奏曲を二つ、しかも古典と現代を両方弾けというのだ。この2月、彼女は紀尾井ホールにおいて「モダン」と「クラシック」を掲げた2夜の演奏会を催しているが、今回はまさにその両方を一夜でこなさなくてはいけないわけである。

20世紀の協奏曲から選ばれたのは、フランスの作曲家ディティユーの「同じ和音の上で」。冒頭でヴァイオリン独奏による音群がパラパラと鳴らされたのち、実はこの6音からなる和音こそが曲のカナメであることが徐々に明らかになってゆく……。完璧主義ゆえ寡作を貫いた作曲家による、美しい構想と響きを持った音楽である。

一方、古典を代表するのが、ブラームスの「ヴァイオリン協奏曲」。今さらのことながら、指盤を突き抜けるような勢いの音の跳躍、とてつもない幅の重音奏法をはじめとして、すべてにおいて最高の技術が試される難曲だ。

休憩が入るとはいえ、この2曲を続けて演奏するというのは、なかなか酷な条件にも思える。しかし、芸術監督は、諏訪内晶子ならば必ずこの試練を乗り越えることができると信じているのだろう。なんとスリリングな試みであることか。

そして、二つの協奏曲の前に置かれたシベリウス「ペレアスとメリザンド」にも注目。尾高忠明の密かな得意曲であり、その凜とした品格は波乱の一夜の幕開けにとりわけふさわしいものだ。

<出演者プロフィール>

**諏訪内晶子 Akiko Suwanai (ヴァイオリン/国際音楽祭 NIPPON 芸術監督,
Violin/Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2020)**



1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ベルリン・フィルなど国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。2012年、2015年、エリザベート王妃国際コンクールヴァイオリン部門及び2019年チャイコフスキー国際コンクール審査員。2012年より「国際音楽祭 NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。デッカより14枚のCDをリリース。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学でも学んだ。使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住の Dr. Ryuji Ueno より長期貸与された 1732 年製作のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

尾高忠明 Tadaaki Otaka (指揮/Conductor)



現在 NHK 交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBC ウェールズ・ナショナル管弦楽団(旧 BBC ウェールズ交響楽団) 桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団 桂冠名誉指揮者を務める世界的指揮者。1991 年度サントリー音楽賞受賞。1997 年英国エリザベス女王より大英勲章 CBE を、1999 年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与された。2012 年有馬賞(NHK交響楽団)、2014 年北海道文化賞、2018 年度関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化賞、日本放送協会放送文化賞、2019 年第 49 回 JXTG 音楽賞洋楽部門本賞を受賞。

NHK交響楽団 NHK Symphony Orchestra, Tokyo



NHK 交響楽団の歴史は、1926 年にプロ・オーケストラとして結成された新交響 楽団に遡る。その後、日本交響楽団の名称を経て、1951 年 NHK 交響楽団と改称。今日に至るまで、カラヤン、アンセルメ、カイルベルト、マタチッチなど世界一 流の指揮者を次々と招聘し、歴史的な名演を残している。近年 N 響は、年間 54 回の定期公演(NHK ホール、サントリーホール)をはじめ、全国各地で約 120 回の演奏活動を行っている。また、2013 年 8 月にはザルツブルク音楽祭に初出演、2020 年春にベルリン、ウィーンをはじめ、ヨーロッパ主要 9 都市で公演を行うなど、その活動ぶりや演奏は国際的にも高い評価を得ている。現在 N 響が擁する指揮者陣は、首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィ、名誉音楽監督 シャルル・デュトワ、桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット、桂冠指揮者 ウラディーミル・アシュケナージ、正指揮者外山雄三、尾高忠明。

国際音楽祭 NIPPON2020 オフィシャルサイト:<https://www.japanarts.co.jp/special/imfn/>

写真ダウンロード:<https://bit.ly/35DPF50>

お問い合わせ: (株)ジャパン・アーツ広報宣伝部 TEL(03) 3499-8100 (平日 11:00~18:00)
担当:伊藤亜紀子 itoak@japanarts.co.jp pr@japanarts.co.jp